
ニホンイシガメの保全の試みと課題

三根佳奈子・谷口真理

673-0012 兵庫県明石市和坂 1-15-34 株式会社自然回復

The conservation and challenge for the Japanese ponds turtles in the Kobe, Hyogo.

By Kanako MINE and Mari TANIGUCHI

Nature Recovery Co., Ltd., 1-15-34, Wasaka, Akashi, Hyogo 673-0012 Japan

はじめに

兵庫県神戸市においてニホンイシガメ(以下イシガメ)は環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類に相当する絶滅の恐れのある野生生物であり、保全対策が求められている。イシガメの生息数減少の要因は①生息環境の消失や分断、悪化、②外来種による影響、③悪質な業者による乱獲、④交通事故による死傷などが挙げられ、イシガメの保全、生息数回復のためにはこれらの要因に対して総合的に対処する必要がある。神戸市北区の国営明石海峡公園神戸地区あいな里山公園(以下公園)は、永続的に里地里山等の管理が行われることから、上述した要因のうち①③④のリスクを大幅に低減でき、在来種保全地として効果が高いと考えられる。そこで、2019年より公園内の淡水ガメの生息実態を把握するとともに、イシガメの保全対策手法について、検討してきた。本稿では、その実施内容の一部概要を紹介する。なお、本内容は神戸市のニホンイシガメの保全に向けた生息調査業務等の事業で行ったものである。

外来種クサガメ対策

イシガメとの資源競争や、交雑による遺伝子汚染を引き起こすクサガメは公園にも多く生息しており、本種の繁殖やイシガメとの雑種と思われる個体も確認されている(2019年～2023年捕獲調査実施)。そこでクサガメをイシガメの生息区

域から除去し、遠隔地(約800m離れた地点)に放流することで2種の生息域を分離できないかを検討した。2021年に遠隔地へ放流したクサガメ45個体のうち、12個体が放流から約1年後に再捕獲され、このうち11個体が元捕獲地点(イシガメが生息する区域)で、残り1個体は遠隔地で確認された。約800mの距離では生息地を分離することは困難であることが示唆された。

公園外からのイシガメの移植実験

公園がイシガメの保全地として機能するか検討するため、公園外で捕獲されたイシガメ9個体(いずれも野生の成体)を2021年から2022年に公園内へ移植放流し、発信機による追跡を行った。9個体のうち1年以上追跡できた4個体の行動圏は388～1208mで、既存の知見と比較すると行動圏は広くなる傾向がみられ、放流から1年経過しても行動圏が収束する兆しもみられなかった。また2023年3月までに5個体はアライグマとみられる食害をうけた状態で死亡・負傷し、その他2個体は原因不明により死亡した。単に個体(成体)を移植するのみでは定着が難しく、かつ公園内においては特にアライグマによる悪影響が著しく大きいことがわかった。

イシガメ保全区間の整備

上記の結果を踏まえ、2024年9月、電気柵を施した保全区画(約30m×30m)を公園内に整

備した. アライグマからの食害を防止するとともに, 自然環境下の閉鎖的な空間で過ごすことにより順化を促すことが目的である. 試験的に同年9月に5個体(いずれも野生の成体)を導入し, 経過を観察している(2024年3月現在).

今後

引き続き各関係機関と連携し, 公園内における

イシガメ保全手法について検討していく.

謝辞

本調査を実施するにあたり, 国営明石海峡公園神戸地区あいな里山公園の皆様にご協力いただきました. また, 本調査は, 神戸市環境局自然環境課からの業務委託により行いました. この場を借りて御礼申し上げます.

続・江戸の町のどこにイシガメがいたのか — 六義園で暮らした大名の日記から —

後藤康人¹・辻井聖武²

¹ 100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2 八丈島を盛りあげ隊 歴史民俗資料館担当

² 190-0022 東京都立川市錦町 2-1-22 株式会社自然教育研究センター

Where Were *Mauremys japonica* in Edo? Part II – Insights from a Daimyo's Diary at Rikugien Garden.

By Yasuhito GOTO¹ and Masamu TSUJII²

¹ *Hachimoritai staff in charge of history and folklore museum, 2551-2, Okago, Hachijo-machi, Hachijojima, Tokyo, 100-1498, Japan*

² *Center for Environmental Studies, 2-1-22, Nishiki-cho, Tachikawa, Tokyo 190-0022, Japan*

はじめに：江戸の町に生息していたイシガメ

前回, 第10回淡水ガメ情報交換会で, 筆者らは江戸時代(1603–1868年)の江戸(東京都区部中央部)を対象に, 歴史資料(遺跡・風俗画・文献等)からニホンイシガメ *Mauremys japonica* (以下イシガメ)が生息していたと推定される場所10箇所を報告した(後藤・辻井, 2023). その後も引き続き調査を重ねたところ, 注目すべき資料を見出したため, 該当地の実地踏査と内容の検討を行った.

「不忍池蓮見」に描かれたカメ：

谷田川から不忍池への流路を踏査

江戸時代後期に刊行された『江戸名所図会』(斎

藤他(著)・長谷川(画), 1834-36)の「不忍池蓮見」には, 水面に多数のイシガメやニホンスッポン *Pelodiscus japonicus* と思われるカメが描かれている(図1). 同時代の自然誌として知られる『武

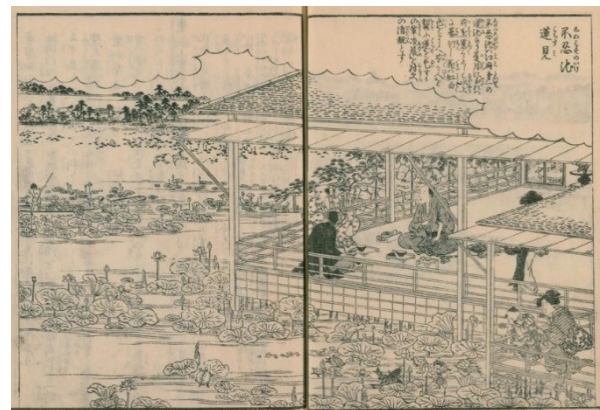


図1. 『江戸名所図会』不忍池蓮見(国立国会図書館デジタルコレクションより)